

会 議 録

会議名	令和7年度 第2回 山陽小野田市国民健康保険運営協議会
開催日時	令和8年1月29日(木) 16時00分～18時00分
開催場所	山陽小野田市役所 3階 大会議室
出席委員	檜垣 毅 深井 篤 中村 尚子 高木 理代 伊藤 忍 宮 一雄 中務 達也 上林 雅樹 穂本 貴子 山本 直仁 瀬口 美砂 長谷 亮佑 藤原 健一 (計13名)
欠席委員	古屋 憲太郎
事務担当課 及び事務局出 席者	(福祉部) 部長 尾山 貴子 次長 石田 恵子 (保険年金課) 課長 西崎 大 課長補佐 田中 洋子 国保係長 村田 直美 収納係長 川村 和寛 保健事業係長 戸川 千花
会議次第	1 開会 2 辞令交付 3 福祉部長あいさつ 4 出席委員数報告(会議成立の報告) 5 議事 (1) 令和7年度国民健康保険特別会計補正予算(案)について (2) 令和8年度国民健康保険特別会計予算(案)について (3) 令和8年度国民健康保険料率(案)について (4) 山陽小野田市国民健康保険条例の改正(案)について (5) 令和8年度保健事業について (6) その他 6 閉会
<p>●辞令交付</p> <p>●福祉部長あいさつ (福祉部長)</p> <p>皆保険制度の我が国にあって「最後の砦」とも言える国民健康保険制度だが、被保険者数の減少や医療の高度化、後期高齢者制度や介護保険制度の支援金の増加なども影響し、財政的には大変厳しい状況である。本市としては、国保事業を健全に運営していきたい。</p> <p>本協議会は、国民健康保険法第11条の規定により設置しており、国保運営に関する重要事項について御審議をお願いしている。</p> <p>本日は、来年度から新たに賦課・徴収される子ども・子育て支援納付金や保健事業、令和8年度予算案などについて説明する予定である。委員の皆さんには、本協議会の趣旨をお汲み取りいただき、それぞれの専門分野、立場から多様な御</p>	

意見を頂戴したい。

●出席委員数報告（会議成立の報告）

- ・出席した委員が過半数に達し、本会議が成立することを報告。
（14名中13名出席）

●議事1 令和7年度国民健康保険特別会計補正予算(案)について

（事務局）【資料1】について説明。

（深井委員）

歳出に特定健康診査等事業費の減額があるが、想定した見込みがなかったということか。

（事務局）

特定健康診査のうち集団健康診査について、当初の予定より受診者が少なかったため減額補正する。

（議事1については承認）

●議事2 令和8年度国民健康保険特別会計予算（案）について

（事務局）【資料2】について説明。

意見等なし

（議事2については承認）

●議事3 令和8年度国民健康保険料率（案）について

（事務局）【資料3】について説明。

意見なし

（議事3については承認）

●議事4 山陽小野田市国民健康保険条例の改正（案）について

（事務局）【資料4】について説明。

意見等なし

（議事4については承認）

●議事5 令和8年度保健事業について

（事務局）【資料5】について説明。

（深井委員）

特定健康診査の令和8年度目標値が44%となっているが、令和8年度予算額が減っているのはどういうことか。

（事務局）

受診率は伸ばしたいが、対象者数が減少しているため減額となる。

（深井委員）

目標値を上げても、対象者が減っていくということか。

(事務局)

そのとおりである。

(宮委員)

市の周知活動の効果なのか、最近、歯周病検診の受診者が増えている。受診者の受診希望時間と医療機関の時間が合わないことがあり、受診意欲を下げる要因になっているかもしれない。2年間歯科受診歴がない方に歯周病検診の受診勧奨をしているということだが、日頃から歯科受診している方は健康に対する意識が高いが、あまり意識がない方に勧奨してもなかなか難しいため、歯周病検診に関しても、受診している方にみなし健診を広げられるといい。歯科検診を受けている方が特定健診を受けているか、また、特定健診を受けている方が歯科検診を受けているか、優位差や関連があるのか調べて市のデータを出して、医師会と歯科医師会に共有したほうがいい。メタボリックシンドロームは歯周病から来ると言われているため、歯科検診をきっかけに意識が高くなるのではないか。歯科検診受診者は高齢者が多いため、若者へのアプローチをどうするかが課題になる。若者でも歯科受診している方は健康意識が高いため、分析し作戦を練れば、特定健診など他の健診の受診率向上に繋がるのではないか。

(中務委員)

来年度、受診率が変わらなければ、パンフレット等、何か検討したほうがいい。

(事務局)

特定健診と歯周病検診の受診者の傾向を分析し、効果的な勧奨を実施したい。若者へのアプローチについては、子育て支援分野と協力・連携しPRしていきたい。

(長谷会長)

妊婦健診に歯科検診があるため、親子で受診してもらえる流れができるといい。

(上林委員)

ジェネリック医薬品推進事業があるが、ジェネリックは国主体で推し進めている。OCT類似薬については、患者の負担が増えていくと言われている。重複・多剤・頻回受診対策については、患者に多剤の通知が届くと、悪いことをしているのかと薬局に相談に来られる方が目立つため、オブラートに包んでほしい。事業を続けていくことが大切である。

(長谷会長)

多剤に関しては、医師が処方せざるを得ない場合もあり、薬を飲まれる方全員が悪いことをしているわけではないため、上手に進めていただきたい。

(伊藤委員)

みなし健診については、医療機関は患者の同意を得て実施しないといけないところが大変であり、患者にメリットがあることが理解されないとなかなか進まない。医療機関に対象者のお知らせは届くのか。

(事務局)

医療機関には対象者リストを送っている。患者にもみなし健診が使えることを通知するか検討している。

(伊藤委員)

患者は、医療機関で診てもらい指導を受けているため、健診は受けなくても大丈夫だと思っている。眼科のことを言えば、特定健診制度開始以前の基本健診診査では、オプションでスクリーニングに視野検査が入っていたが、特定健診になって含まれていない。眼底検査は実施されているが、緑内障が増えているため、視野検査を入れる動きがあれば教えてほしい。

(長谷会長)

糖尿病の重症化予防では透析や糖尿病性腎症ばかりだが、糖尿病性網膜症のところで緑内障の視野検査とか、どこまで眼科に繋がるかという課題もある。

(中村委員)

歯科に定期的に通っているが、歯周病検診を受けるには医師に言えばいいのか。

(事務局)

国保の歯周病検診を使えるか確認し、市国保の歯周病検診対応の医療機関であれば、歯周病検診として受けることができる。

(中村委員)

脳ドックは、受診したことのある市外の医療機関でも受けることができるのか。

(事務局)

指定の医療機関が市外を含め5か所ある。まずは申し込んでいただき、申込者からランダムに抽選し医療機関を指定し受けていただいている。医療機関を指定することはできない。

(高木委員)

女性団体連絡協議会の中の母子保健推進員は、妊産婦や未就園児を対象に活動しており、今年度、県の研修で、妊婦の歯の健康が低体重児の出産や糖尿病、脳血管障害など全身疾患に繋がると学んだ。研修後、歯科を受診した方もおり、そういった研修は身近に考えられ効果的である。事業の分かりやすい説明があるといい。

(深井委員)

今回、若者健康診査があることを初めて知った。受診率が低いということだが、仕事を休んで受診する必要があり難しいと思われるが、健康に関する意識づけになるため、継続して頑張してほしい。

(事務局)

特定健診を受けられる医療機関で実施しているため、土曜日でも受診でき、集団健診であれば日曜日でも実施している。日曜日は若い受診者が多い。

(檜垣委員)

昨年5月に、職場で健康診断を受けたが、みなし健診になるのか。

(事務局)

職場で受けた健康診査の結果を提出していただければ、みなすことができる。昨年は1名のみだった。

(檜垣委員)

脳ドックの目標が100%となっており、他の事業に比べ、ここだけ高いのはなぜか。

(事務局)

「R7実績見込」欄は、180人定員に対する実施率となっている。令和6年度は、180人定員に対し117人の申込みだったが、令和7年度は、180人を満たす予定である。令和8年度の目標も100%、180人定員を満たすことにしている。

(檜垣委員)

目標の180人というのは、どのように設定しているのか。

(事務局)

脳ドックを受けられる医療機関のキャパシティがあり、増やすことが難しい。180人分の予算は確保している。

(長谷会長)

どういった方に脳ドックをお勧めしたいかを考え検討するといいかもかもしれない。

(穂本委員)

メンタルヘルス対策が一番気になる。子育て中であり、周りに不登校の子が多いが、心療内科を予約しても数か月待ちになると聞いた。受診する前に相談できる場所があれば親も安心できる。受診できる心療内科の情報も多くあればいい。

(瀬口副会長)

地域介護予防活動支援事業（通いの場）があるが、社会福祉協議会としては、高齢者のサロン活動を進めており、介護予防で健康寿命を延伸できるよう啓発し増やしていきたい。

(藤原委員)

協会けんぽにおいても特定健診や特定保健指導など、国保と同様の事業を実施している。全市町で集団健診時に協会けんぽ加入者も一緒に受診できる機会を確保していただいている。協会けんぽ加入者も年齢到達でいずれ国保加入されるため、生活習慣等が悪化しない状態で、被用者保険から国保に移行していただけるよう連携していきたい。

次回開催予定

令和8年7月下旬～8月上旬